

J a p a n O r i g i n a l

日
本
の
ス
ポ
ー
ツ
車

THE LEADING EDGE OF TECHNOLOGY

ARAYA[®]

<http://araya-rinkai.jp/>



2 Japanese Classic

ツーリング車の追求

スポーツ車の最大の魅力は、ツーリング。競技を主に置くアスリートにおいても、機材であるロードに乗って、ツーリング的な楽しみを見出し、いる方は少なくないはず。

ツーリングを主に置くのであれば、自転車は機材という枠を離れ、旅の道具としての端正な佇まいも求めたくなります。雨の多い日本の風土に必要なフェンダーや、バッグや荷物を積むためのキャリア等は、旅への機能であり、美しく組み付けられたそれらは、雰囲気への演出要素も大きいはず。現代的な自転車には見られないこれらの要素。今までは、一部愛好家のオーダー車の世界でもありました。

日本で育まれたツーリング車の設計思想を引き継ぎ、現代的な部品仕様でアレンジしたジャパンクラシック。製品として誰でも入手できることを目指し、高いステータス性のあるモデルから、気軽に旅を楽しみたいモデルまでラインナップしました。それらは、ARAYAブランドのイメージを築き上げたといっても過言ではありません。



1 Introduction

日本のスポーツ車とは

ARAYA。人生の先輩諸氏なら、ツバメ自転車に思いを馳せられるだろうし、大人の方々ならマディフォックスをイメージされるかもしれません。「二台にまさるこの一台」独自のキャッチコピーのとおり、金ツバメは当時の自転車の約二倍の価格でしたが、二台の自転車以上の寿命を有する高い品質を誇っていました。またマディフォックスは、日本で初めて量産化したマウンテンバイクであり、その後活躍する多くのMTBレーサーも育みました。

ツバメ自転車は、日本の高品質一般自転車ブランドになり、アラヤは、それ以外にも多くのスポーツ志向の高い自転車にも挑んできました。それは、価格よりも品質を追求した金ツバメの思想も継承し、販売の易さよりも、独自性を優先した自転車創りに顕れています。その遺伝子と、アメリカで芽生えたばかりのMTBへの着目、マディフォックスの開発に辿りついたと言えます。

海外にも高く評価され、数々の著名ブランドOEM生産も含め、輸出も積極的に行ってきたのですが、国内向けに考え続けたのは日本人と日本の地形、日本での使われ方を優先させたこと。マディフォックスも日本を徹底的に考えた設計・仕様と、スローピングフレームを提案したモデルから、米国生まれのMTBを日本の自転車に脱皮させ、絶大な支持を獲得したと自負します。

日本文化の再認識が注目される現代。先駆けて2005年から「ニッポンのスポーツ車」を提唱するARAYAブランドは、数々のスポーツ車の開発志向を継受。欧米的なスポーツバイクが多い中において、高い独自性があると確信します。国内だけでなく海外へも発信し、自転車のグローバルブランドにも拡大。日本固有のクラシックと、今後を追求したモダンカテゴリで構成しました。

1982 MuddyFox *1st Japanese Mountainbike



Japan Standard, Bicycle for Japan

Japan Standard Since 1903



1946 金ツバメ *1st Swallow bicycle



1988 Excella Carbon *Reinforce with Fish-head design

1959 金ツバメ Toptour *w/3speed hub

1964 Swallow Racer Deluxe

1967 Swallow Camping

1974 Locky *Folding for Coin-locker

1977 Micro-Hurry *1st Mini-Velo



1988 CX *1st Crossbike



1988 MuddyFox Magnesium *1st Magnesium Frame MTB



2000 Excella Messenger *1st Flat-bar Road



2000 Handyduck Special *Folding w/Dual-suspension and 3x8sped



【 旅へ誘うランドナーズペック 】
緩やかに広がり、優しいラインを描くランドナーバーは、ツーリングでの理想のポジションを求めた最終形状とも言えます。B135ランドナーバー・パールシステムだけでなく、細部に亘るまで美しさを理想を貫き、ステアや背もたれ部分の配置に様式美を追求したスワロー・ランドナーのためのオリジナルのパイプ製小型キャリアも日東製。輸行人にも便利なブレーキケーブル上出しのダイヤコンペ 204QCブレーキレバーには、グランコンペケーブルアジャスターが追加装備され、リヤ10段シフトを備えるSHIMANO TIAGRAをスペック。全てに亘りランドナーのためのスペックを具現化しています。



【 トラディショナルワーク・モダンスペック 】
MKS三ヶ島ベダル製EZ-PROMENADEを標準装備。確実なクイックリリースシステムを備え、工具不要でベダルの脱着が可能。輸行人にも対応しました。チェーンステー・シートステーにもチェーンフックを備えたフレームワーク。日本製クロモリチューブのカイセイ022とロストワックスで構成されたフレームは、細部に至るまで入念な工作が施されました。トラディショナルな創りでありながらも、リヤ10段のロード系コンポーネントSHIMANO TIAGRAでスペック。基本性能を大幅に向上させるだけでなく、将来のカスタマイズやメンテナンス性にも優れます。

【 これからできる、小さな旅 】
1967年、当時では希少で入手困難であった欧州部品を積極的に採用し、要であるフレーム・キャリアは内製化。徹底的にキャンピング自転車の理想を追求したのがスワロー・キャンピング(S・C)でした。結果的に当時の大卒初任給の三倍の価格になつてしまいましたが、スポーツ車にも「二台にまさるこの一台」というツバメ自転車のコンセプトを貫いたものでした。
ランドナーはフランスで発祥し、長い年月をかけて日本独自の旅のための自転車として発展してきました。スワロー・ランドナーは、S・Cの血統を引き継ぎ、熟成した日本ブランドコンポーネントを取り入れ、ツーリング車としての機能と美しさを凝縮した自転車です。
遠い昔に体験した、或いは夢見た遠乗りまでではできなくとも、ランドナーで週末の小旅行を愉しんでみてはいかがでしょうか。

これからできる、小さな旅



【 進取と伝統のコンポーネント 】
リヤ10段シフトのロードコンポSHIMANO 105とエッジの効いたデザインでアルミポリッシュと部分的に施されたCNC加工仕上げが美しいチェーンホイールSUGINOマイティツアーを採用。自転車の主軸であり、また顔でもあるドライブトレインには、進取と伝統の融合・両立が図られています。ロストワックス製法の超小型リヤエンドには、SHIMANO 105前後ハブを組み込みました。またドロコクステアは、フエンダー本体とともに、18.8ステンレスで製作されたオリジナルダルマネジで固定。ドロコクのクリアランスを最適に保つために、ステア長さの調整が可能になっています。



【 スペシャルメイドフロントキャリア 】
中空のスチールチューブを美しいロウ付で構成した、小振り非常に軽量なキャリアは、エクセラ・スポルティフのために特別に日東で製作されました。ヘッドチューブとマッチングが考慮された背もたれ部分、ダウンチューブと平行に配されたステアなど様式美に則った設計です。ステアは、フォークブレード内側に設けられた台座に取り付けられ、キャリアを外した際にも台座が目立ちにくくなっています。フエンダー(ドロコケ)も、35mm幅で深さを抑え、少し厚めのアルミ合金を左右の折り返し無しでロールフォーミングした独自断面。全長やステア取付も様式美を追求し、ポリッシュで仕上げました。

【 スポルティフ、憧憬から実現へ 】
かつて、ツーリストだけでなく、レースを愛好するアスリートも、最後に求めたのはスポルティフでした。快走のための機能美だけでなく、優雅な美も有したスポルティフは、オーナーの所有する喜びも高いスポーツ車。舗装率が高まり路面状況が良くなった現在、もっとも適したツーリング車とも言えます。
エクセラ・スポルティフでは、トラディショナルな工法に則ったスポルティフ本来の美しさの中に、リヤ10速コンポーネントなど、現在のロードバイク機能も積極的に取り入れられました。総重量10キロ台に纏め上げ、キャリア・フエンダーを外せば9キロ台のヴィンテージな雰囲気味わえるロードとしても充分に機能するタイトなフレーム設計も大きなポイント。
いつかはスポルティフ。今、実現します。

RAN SWALLOW Randonneur

SWALLOW

¥170,000 (消費税別)



RAN 500mm R (スワロー・ランドナー メープルレッド)

EXS EXCELLA Sportif

EXCELLA

¥220,000 (消費税別)



EXS 550mm BL (エクセラ・スポルティフ ディープブルー)

Option Parts

Customize



RAN 540mm G (スワロー・ランドナー ダークモスグリーン) 日東キャンピー前後セット装着イメージ

Option Parts

Customize



サドルバッグのサポートや、ツーリングでのちょっとした荷物をくくりつけるのに便利な超小型キャリア。日本の日東で製作。美しいロウ付で加工されたARAYAオリジナルデザイン。付属されたダルマネジとアルミステーで、角度調整も可能になっています。



EXS 510mm Y (エクセラ・スポルティフ マスタードイエロー) リヤバッグサポーター CA-RRA装着イメージ

ARAYA Rims TM-840F

ダブルウォール(二階建構造)断面で設計され、強度アップと軽量化の両立が実現。スポークアイト(ハトメ)も設けられ、高いスポークテンションに対応し、クラシックなデザイン性も向上しています。

ARAYA Rims AR-713

加速性向上も体感できる高剛性のAR-713。カラーコーディネートも考慮してシルバー/CNCフィニッシュを特別に用意しました。32Hでしっかりと組まれたホイールは、メンテナンス性にも優れます。



【 全てにおけるハイグレードスペック 】

メンテナンスを重視したフルSHIMANOコンポ。ALTUSリヤ8段仕様だけでなく、安全性を高めるためブレーキにはSHIMANOカンティブレーキを採用し、ハンドル上部に配されたセーフレバーにより、安定した制動操作も可能になっています。ギヤクランクには4アームデザインのSR-SUNTOUR XCTチェーンホイールでグレード感を向上。全てにおいてツーリングに十分応えるハイグレードな仕様を誇ります。26×1.3/8ホイールは、最も普及したサイズで高い補修性を実現。700Cと26H/Eホイールの中間になるサイズは、アラヤ・フェデラル独自のプロポーションを演出するとともに、日本人に一番適したホイールサイズとも言えます。

サイクリング車への回答

スポーツ自転車の原点は、移動する愉しみであり、ツーリング、スポーツライディングから街乗りまで多くの意味合いを含んだ「サイクリング」につきます。スポーツ車が多く、パリエーションから選べるようになったのは嬉しいことですが、気持ちよく移動するためのスポーツ車を選ぶのは案外難しいものです。

かつて、ランドナーの豪華な仕様を簡素にまとめ、サイクリングのための自転車としてフェデラルカテゴリーが提唱されました。それを現代に訳した回答がここにあります。シンプルでデザインの中にサイクリングというベシクな性能を凝縮させ、所有するためのハードルを下げた中にも高機能とハイグレードな仕様を奢りました。

日本の標準ホイールサイズとも言える26×1.3/8を装着したプロポーションは、ある意味新鮮なスポーツ車と言え、ホイールの補修性にも優れます。限定生産モデルとして440mmサイズを追加。身長150cm台からも乗車が可能で、日本のサイクリング車をさらに追求いたしました。

サイクリング車への回答



【 SHIMANO CLARIS & チェーンフック 】

ロードコンポSHIMANO CLARISをハブに至るまで採用。8段11-32Tカセットギヤと、フロントコンバクトドライブ50-34Tによりワイドなギヤレシオを獲得して、登坂性にも優れたツーリングにも威力を発揮します。チェーンフックをシートステー、チェーンステー2箇所へ配備して、ホイール取り外し時、輸送も考慮しました。標準の変速レバー仕様はダブルレバーですが、リヤOLD130mm設計により、デュアルコントロールレバーとの互換性も有して、将来のロードカスタマイズにも対応。発展性も考慮しています。チェーンホイールには脱着可能なギヤガードも装備しました。



【 ARAYAオリジナルフェンダー 】

ARAYA独自の設計により、SHIMANOロード用ブレーキBR-R451と700×28Cタイヤでフルフェンダーの標準装備を可能にしました。ステンレス製のデバイス、後部をボルトオンとすることで、フェンダー後部を分割で取り外すことができ、輸送に便利な仕様となっています。また、目立ちにくいシートステー内側にキャリアダボを配備し、オプションのリヤバッグサポーターに対応。リヤエンドのダボを利用して一般的なリヤキャリア取付も考慮されました。ロードからツーリングまで、幅広い用途に対応した新たな700C快走車の提案を具現化しています。

早く快適なブルベとは

ランドナーと同じく、日本のスポーツ車の故郷でもあるフランスに源を辿るディアゴナル。フランス全土のディアゴナル、つまり対角線にあたるコースを制限時間内に走る長距離サイクリングのことで、現在で言うところのブルベ、ロングライドになります。レースではありませんが、スポーツ志向の高いサイクリングと言えましょう。また同時に、ツーリングに必要なスキルや装備も必要になるものです。

長距離を、速く、そして快適に走るためにスポーツ車を見つめなおしました。高速ツーリングに適した700Cホイールには、ロードより少し太めのタイヤを履き、機能性を重視してロード系コンポーネントを装備。日本のツーリングに必要なフェンダーもリヤ分割式の、オリジナル設計で装備しました。

スポーツ車の定番700CホイールモデルにもARAYAの独創を提案いたします。

FED ARAYA Federal

Federal
¥57,000 (消費税別)



FED 500mm BL
(アラヤ・フェデラル ディープブルー)

Customize

Option Parts
日東キャンピー前後セット
装着イメージ



FED 540mm R
(アラヤ・フェデラル マルーンレッド)

ツーリング/サイクリングを考えたフェデラルは標準仕様でも十分に活用可能ですが、オプションのフロントキャリア装着でランドナーの機能と装いを愉しめ、キャンピー装着でロングツーリングにも対応します。

Option Parts

- ・日東キャンピー フロントキャリア ¥21,250
- ・日東キャンピー リヤキャリア ¥21,250
- ・フロントキャリア RAN純正と同仕様 (CA-RAN) ¥10,000
- すべて取付料別・消費税別です。詳細は、4ページRANをご覧ください。440mmサイズはシートステーが低いため、キャンピー取付ができません。

Option Parts
フロントキャリア CA-RAN
装着イメージ



FED 440mm K
(アラヤ・フェデラル グロスブラック)



ARAYA Rims
SP-30

ランドナーなどツーリングモデルの定番ともなったスクエアなデザインの23mm幅W/Oリム。強度レベルの高いMTBリム等との比較試験を行い、従来より強度基準を向上させ、新型断面設計を施しました。

DIA ARAYA Diagonale

Diagonale
¥65,000 (消費税別)



DIA 540mm IV
(アラヤ・ディアゴナル ダークグレー)

Customize

ロードカスタマイズイメージ
(カスタマイズの一例です
部品交換は販売店でご相談ください)



DIA 500mm B
(アラヤ・ディアゴナル ライトベージュ)

ロードにも準じたタイトなスケルトンにより、サンデーレーサーにもレースへのエントリーを誘い、またオプションのキャリア装着により、数日のツーリングにも対応したカスタマイズも可能です。高速度性と、快適性。そして、ロングライドを追求した、ディアゴナル独自のフィーチャリングになっています。

Option Parts

- ・フロントキャリア (CA-EXS) ¥10,000
- ・リヤバッグサポーター (後荷台) (CA-RRA) ¥12,000
- すべて取付料別・消費税別です。

Option Parts
フロントキャリア CA-EXS
リヤバッグサポーター CA-RRA
装着イメージ



DIA 500mm B
(アラヤ・ディアゴナル ライトベージュ)



ARAYA Rims
TX-733

高強度ダブルウォール構造でありながら低いリム高さを有したTX-733は、チューブラーリムと同様のスリープジョイントも採用。トラディショナルなスポーツ車にもフィットしたデザインも魅力です。

Traditional

Touring/Cycling

Race

CX

Mountainbike

Collaboration

Traditional

Touring/Cycling

Race

CX

Mountainbike

Collaboration



【一新されたフレームワーク】

フレームからフォークまでインテグレートデザイン。フォークはイタリアで長い歴史と多くの実績を誇るブランドCOLUMBUS製。ドロップアウトまでカーボンで構成された超軽量・高剛性の1.5サイズターバードヘッドフォークを採用しました。シンプルなラウンド断面の軽量ダブルパッドアルミ合金チューブを、美しいスムーズTIG溶接で加工されたフレームは、扱いやすいスローピングフレームに、全面的に設計変更。コンパクトなフレームサイズが実現し、跨ぎやすいスタンドオーバーハイトだけでなく、乗車可能の幅を広げました。300g台のフォークと、約1600gのフレームは、完成車の軽量化にも寄与。無理なパーツベックをすることなく、8キロ半ばの重量が実現しました。将来のカスタマイズにおいて、さらなる軽量化の余地も残しています。



【高い信頼性のコンポーネント】

レースのフィードバックを追求するRITCHEYコンポーネント。ハンドルバー、ステム、シートポストのコントロール系に統一して採用しました。徹底的にデザイン・形状を追求したシャロードロップバーに組まれたデュアルコントロールレバーには、シフトケーブルを内蔵できるSHIMANO 105を著り、他は特別仕様28Hのハブに及ぶまでTIAGRAをフルアセンブル。ARAYA AR-713リムで組まれ剛性の高いコンベンショナルホイールは、加速性能の向上に貢献します。

競技機材であるロードは、速く走ることが第一義。また、速く走れるということは、軽く楽に走れることも可能。もっと多くの方に愉しんでもらいたい自転車です。しかし、ロード特有のドロップハンドルや価格的なことなどがハードルになっているのが現実でした。エクセラレースは、競技機材としてのスペックを備えながらも、あらゆるハードルを低くしました。さらに、スポーツ車として、誰でも実感できる8キロ台半ばの超軽量化を実現しました。操作性に優れた、浅めのドロップバーに装着された、扱いやすいクラスアップのデュアルコントロールレバー。ドロップハンドルが、手の動きに合ったハンドル形状であることが再発見されることでしよう。メインコンポーネントだけでなく、細部まで高性能を追求し、現実的な価格をも実現しました。プロダクションによるロードは、多くのライダーのためにはあるはず。これもまた、ひとつの日本のスポーツ車のカチと考えます。

プロダクションロードの追求



EXR 440mm W/BL
(エクセラ・レース ホワイト/ブルー)



EXR 520mm W/BL
(エクセラ・レース ホワイト/ブルー)



EXR 480mm W/R
(エクセラ・レース ホワイト/レッド)



上下方向にオーバル加工されたバドルシェイプバックステア。振動吸収性の向上と、駆動伝達効率の向上を両立。またスリムなサイドビューデザインを演出します。トップチューブからシートステーに連続するストリームラインを描き、カラーリングとともに独自のデザインが施されました。

EXR EXCELLA Race
¥110,000 (消費税別)

スポーツ機材として、ツーリング用として、あるいは嗜好性を求めて。スポーツ車は、実用だけの世界から距離を置き、自由度の高い移動手段として、今後も様々な背景と用途で発展していくと確信します。それは作り手側からだけでなく、使う側からの相互の情報発信で進化を続けていくでしょう。

日々進化するハードと、実際のライディングシーンを考え、展開するのがモダンカテゴリー。それは、欧米のバイシクルシーンの輸入だけでなく、日本の現代自転車シーンを中心に考えました。それは徹底的な軽量化、1988年提唱したCXカテゴリー、あるいはいち早く取り組んだ新たなホイールサイズのMTBや、女性ユーザーを真剣に考えたある意味ニッチな自転車などに顕れています。

創業以来、堅実で高品質な自転車を提供するだけでなく、常に粋に捕らわれない自転車も提案してきたARAYA。そのヘリテージを継承し、現代においても次代のスポーツ車の可能性を求めて、新たなスポーツ車にも取り組んでいます。



Traditional
Touring/Cycling
Race
CX
Mountainbike
Collaboration



[SHIMANO CLARISフルスペック]

ロードコンポSHIMANO CLARISをフルスペック。扱いやすいフラットバーロード用ラビッドファイヤーレバーを採用し、足回りが頼もしいクロスバイクとして幅広いシーンでCXの活用が可能。ドロップバー用デュアルコントロールレバーの換装も互換性も有しています。ARAYAレーザロゴが刻まれたアルミロックリングで固定されるオリジナルグリップは取り外しも容易で、メンテナンスにも有効な仕様となっています。



[ディスクブレーキ台座&ケーブルルーティングシステム]

ディスクブレーキ台座を、カーボンフォークとリヤドロップアウトに配備。ケーブルルーティングシステムも設け、ディスクブレーキカスタマイズも考慮されたフレーム・フォーク設計が施されています。

CX Muddy Fox CX

Muddy Fox CX

¥78,000 (消費税別)



CX 530mm K
(マディフォックスCX パーンブラック)

Customize

コンフォートバイク
カスタマイズ

フリップフロップのハンドルステムを反転し、付属のヘッドスパーサーを使って、リラックススライディングが可能な、高めのハンドルポジションにセット。オプションのフェンダーセットを装備することで、デイリーユースのクロスバイクにも活用できます。



シクロクロス
カスタマイズ

UCI基準の700×33Cタイヤが標準仕様でセットされ、エアロリムを装備したCXは、シクロクロスバイクへのカスタマイズも可能です。(ドロップハンドル、バーテープ、リヤ8段シマノデュアルコントロールレバーのほかブレーキ・シフトケーブルの交換が必要になります。部品の交換・組付は販売店にご相談ください。)



CX 470mm W
(マディフォックスCX パールホワイト)

Option Parts

・フェンダーセット(FN-BDC) ¥4,000 (CXG, CX共通)
取付料別・消費税別です。オプションパーツの組付、カスタマイズの組替・調整は販売店にご依頼ください。

CXの原点を辿る

1988年、ようやくマウンテンバイクが認識されてきた時代。ARAYAはMTBとロードのハイブリッドであるCXを発売しました。MTBよりも、日本のオフロードでのツーリングを考えたモデルでした。それは現在のクロスバイクにも繋がっていると感じますし、またシクロクロスにも通ずるところがあるでしょう。

そして今、CXの原点に立ち、スポーツ要素の高いクロスバイクで、さらにはシクロクロスのホイールチャイも取り入れた、新たなスポーツサイクルを考えました。

軽量スリムなクロモリフレームは、シクロクロスにミートしたスケルトン。そのままカスタマイズが可能であるばかりか、心強い足回りにより、普段使いのコンフォートバイクへの可能性も秘めています。

CX、シックスは、探すという意味もあります。マルチパースな愉しみを再発見されてはいかがでしょう。



ARAYA Rims

SA-730

現在のディープエアロリムのベースを築いたARAYAスーパーエアロリムは1980年初頭に登場。現在の素材・製法技術を駆使して現代に甦りました。名品の誉あるSA-530Cも後継するSA-730リムをCXG, CXに採用。高い縦剛性のエアロ形状は、マッディな路面における泥掃け性も向上します。CXGに少し太めのでスリック基調トレッドの35C SCHWALBE SAMMY SLICK, CXにはUCI規準タイヤ幅を有した33C RACING RALPHタイヤがスベックされます。



CXG 540mm Y
(マディフォックスCXG サンライトイエロー)

CXG Muddy Fox CX Gravel

Muddy Fox CX

¥95,000 (消費税別)

CXのさらなる進化

さまざまな走行フィールドとライディングシーンにミートさせるために、スポーツ車を複数台所有するオーナーも少なくありません。しかし、一度走り出せば、途中で自転車車を換えることは不可能です。

高速走行性能、状況によって求められる強力な制動性能、多様な乗車可能フィールド。我儘とも言えるこれら相反する要素を満たすために、グラベルロードが注目されてきました。これはまさしくCXが開発されて以来追い求めてきたこと。CXシリーズをさらに進化させ、ARAYA独自のホイールチャリングを盛り込み、CXGを提案します。



[テーパーヘッド]

1-1/8"インターナルアッパーヘッドセットと1.5"エクスターナルヘッドセットを採用し、スリムなクロモリフレームを考慮して可能な限り外径を抑えたデザインのアRAYAオリジナルヘッドチューブ。上下端にヘッドセットに合わせたリブも設けてCNC加工されました。カーボンフォークは、ヘッドチューブに内包される1.5"テーパーフォークコラムまでカーボンで構成され、ステアリング系の大幅な剛性向上を獲得しながら、580gの軽量性も有しています。



[CLARISフルスペック]

SHIMANO CLARISをディスクブレーキシステム以外フルセットで採用。シャロドロップバーにセットされた操作性に優れるデュアルコントロールレバーは、フロント50-34T、リヤ11-32Tのワイドレンジのシフティングシステムを司ります。チェーンホイールには、取り外し可能なギヤガードを標準装備しました。



[SHIMANOロード用ディスクブレーキ]

SHIMANOロード用ディスクブレーキを標準装備。カーボンフォークにポストマウント、リヤはドロップアウトと一体成型されたディスク台座にインストール。スムーズなケーブルルーティングシステムも配備しました。



CXG 540mm K
(マディフォックスCXG サンライトイエロー)

CXG 460mm K
(マディフォックスCXG マットブラック)



内装3段・152mmショートクランク
 シンプルで自転車をすっきり見せる内装3段変速。変速時にチェーンがガチャガチャすることはありせんし、停車時に軽いギヤに前もってシフトしておくことも可能です。グリップレザとサドルはフレームカラーともコーディネートしてセレクトされています。また、スマートなデザインのクランクはロードコンポにも採用される工法のアルミ鍛造製で、コンパクトなスワローcycleのために152mmショートクランクが特別に製作されました。乗車時に膝が上がりすぎることがなく、何よりスムーズなペダリングを楽しんでいただくことが可能になりました。



ツバメ自転車
 SWALLOW「ツバメ」は、1946年に新工業が生産を開始したニッポンの自転車ブランド。「二台にまさるこの一台」をコンセプトに高品質で独自性のある製品を送り続けました。またフレームマークだけでなく各パーツ随所に打刻されたツバメマークは、細部まで高品質を保證する証しでもありました。CCLでは当時使われたツバメをヘッドバジだけだけでなく、クランク、ハンドルシステム、シートポスト、グリップのアルミリングに至るまでレーザー加工で刻みました。当時に劣質品を産出するだけでなく、愛らしいツバメは、自転車をさらにキュートに仕立てあげています。

日本の女性の方々へ
 もし、あなたの身長が160cm以上なら自転車の選択肢はかなり広い。けれど160cm未満なら、一般的なスポーツバイクはちょっと厳しい選択になります。現実的には乗車ポジションに無理が生じます。
 自転車が良い乗り物であることは間違いないことですが、人と自転車が一体となつてはじめて美しくなるのです。日本人女性の平均身長は158cm、ツバメ×cycle号はごく普通の身長の方でも美しく見えるサイズを実現しました。さらに150cm未満の人の370mmサイズも用意。ストイックなスポーツバイクではないけれども、快適なハンドリングやスピード感も追求し、スポーツ車の楽しさを気軽に発見できる新たな自転車のカタチ。10kg台の軽さも嬉しい優しさです。
 文科系自転車情報紙cycleとのコラボレーションで、ニッポンのスポーツ車、もう一つの回答をここに提案いたします。

CCL SWALLOW cycle



¥57,000 (消費税別)



CCL 440mm BL (スワロー・サイクル アメリابلー)



CCL 370mm W (スワロー・サイクル パールホワイト)



ARAYA Rims
 — TX-633 —

高剛性なダブルウォール断面で、トラディショナルな低いリム高さを持ったTX-633は、軽量性と強度を向上させるだけでなく、自転車の足回りを美しくシンプルにまとめます。



1.5"テーパードヘッド対応
 上下ヘッドセット内径を44mmで設定し、可能な限りスリムなデザインでまも上げたオリジナルヘッドチューブ。ストレスがかかる上下端をヘッドセット外径と合わせて肉厚化するなど、強度バランスも考慮してCNC加工されました。
 ローヘッドセットに1.5"エクスターナルヘッドセットに換装することで、テーパーコラムのフロントサスペンションフォークを組み込むことが可能になっています。マディフォックス独自のフロントサスペンション対応設計とともに、MFBの可能性を大きく拡げています。

SHIMANO DEORE コンポーネント
 メインコンポーネントは、SHIMANO DEORE。滑らかな直感的なシフティングが可能なDyna-Sys駆動システムを取り入れ、フロントに27.5"ホイールMTB用コンパクトトリプル40-30-22T、リヤにワイドレンジ10段11-36Tを採用しました。ハイローリック(油圧)ディスクブレーキ、MTB用ハブもSHIMANOで統一。
 ハンドルバーシステムのコントロール系コンポーネントはRITCHEYでまとめられ、高いコントロール性に貢献しています。

MFB MuddyFox MFB



¥88,000 (消費税別)



MFB 420mm K (マディフォックス・MFB グロスブラック)

MF Rigid Geometric Philosophy
Direct Drive Hardtail

マディフォックスの「日本人と日本の地形を考えたMTB」設計思想の一つの回答は、日本の山路、袖道で自転車を操る楽しみを追求したリジッドプラットフォーム。狭いテクニカルなフィールドでは、立ったヘッドアングルが有利であることを見出し、これはバイクライアル的なモデル、マルチトレールへ継承されました。また、オンロードでの高速安定性を考慮した深いBBドロップは、同時に足つき性のメリットももたらします。全長が長いサスペンションフォーク換装の互換性も有り、フロントサスペンションを装備した際に、クロスカントリーMTBとしても理想的なジオメトリを提供します。マディフォックスのリジッド哲学を継承した27.5"/650Bホイール装備のMFB。マディフォックスらしいデザインを受け継ぎながらも進化を続け、少し伸ばされたフォークブレードは、100mmトラベルサスペンションフォークとの互換性を考慮。タイヤクリアランスも拡大しています。



ARAYA Rims
 — DM-650 —

独自のダブルウォール断面構造とスリーブジョイントでMTBRIMに要求される強度・精度を確立した27.5" (650B) サイズリム。幅広のクロシェット設計で、ワイド化するタイヤに対応しています。



Image (front): MFB470mm equipped 100mm travel Front-suspension
 Image (back): MFB 470mm standard rigid-fork

w/rigid-fork 62 | 80 w/suspension

THE LEADING EDGE OF TECHNOLOGY
ARAYA[®]
<http://araya-rinkai.jp/>



新家工業株式会社
ARAYA INDUSTRIAL CO., LTD.